



2016年3月期 第2四半期決算説明資料

2015年10月16日

P3 第2四半期 損益計算書(連結)

P4 事業の種類別セグメント

【広告事業】

P5 第2四半期 損益計算書

P6 四半期売上高の推移

P7 品目別売上高の推移

P8 顧客の状況

P9 従業員の状況

【不動産事業】

P10 第2四半期 損益計算書

P11 第2四半期 連結貸借対照表

P12 第2四半期 連結キャッシュ・フロー計算書

P13 2016年3月期 連結業績予想の修正に関して

第2四半期 損益計算書(連結)

(単位：百万円)

	当2Q累計期間	構成比	前2Q累計期間	構成比	前年同期比
売上高	8,294	100.0%	8,736	100.0%	94.9%
営業利益	519	6.3%	657	7.5%	79.1%
経常利益	525	6.3%	673	7.7%	78.0%
純利益	333	4.0%	401	4.6%	83.1%

✓ パチンコホール業界は、ユーザーの投資金額の減少やユーザー数の減少などにより、依然として厳しい経営環境が続いています。新規出店においても、用地取得からスタートする大規模な案件は減少し、既存ホールを居抜き取得し、改装オープンするなどの小型案件が増えているものの、全体としては新規出店件数は減少の傾向にあります。

✓ 主力の広告事業において、収益構造の転換を図るべく、インターネットメディアや屋外広告の積極的な拡販活動を展開し、新たに異業種に向けたプリンティング、デザイン受託業務を開始し、収益の底上げに努めました。

✓ 結果、当2Qの売上高は8,294百万円(前年同期比△5.1%)、営業利益は519百万円(同△20.9%)、経常利益は525百万円(同△22.0%)、当期純利益は333百万円(同△16.9%)となりました。

事業の種類別セグメント

□当第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	広告事業	不動産事業	その他	調整額	連結
売上高	8,180	77	36	△0	8,294
セグメント利益	684	33	△12	△185	519

□前年同期比

(単位：百万円)

	広告事業	不動産事業	その他	調整額	連結
売上高	△481	+3	+36	△0	△442
セグメント利益	△164	+4	△12	+35	△138

✓ パチンコホール広告および通販広告の広告事業が前年同期を下回ったことにより、連結ベースで売上高△442百万円、セグメント利益は△138百万円となりました。

第2四半期 損益計算書(広告事業)

(単位：百万円)

広告事業	当2Q累計期間	前2Q累計期間	前年同期比
売上高	8,180	8,661	94.4%
営業費用	7,496	7,813	95.9%
セグメント利益	684	848	80.6%

✓ 当2Qのホール広告市場は、前期に引き続き、広告規制に伴う需要の減少に加えて、パチンコホール経営企業の収益性悪化を要因とした広告費削減が断続的に続きました。

こうした環境下で広告事業では、以下のように取り組みました。

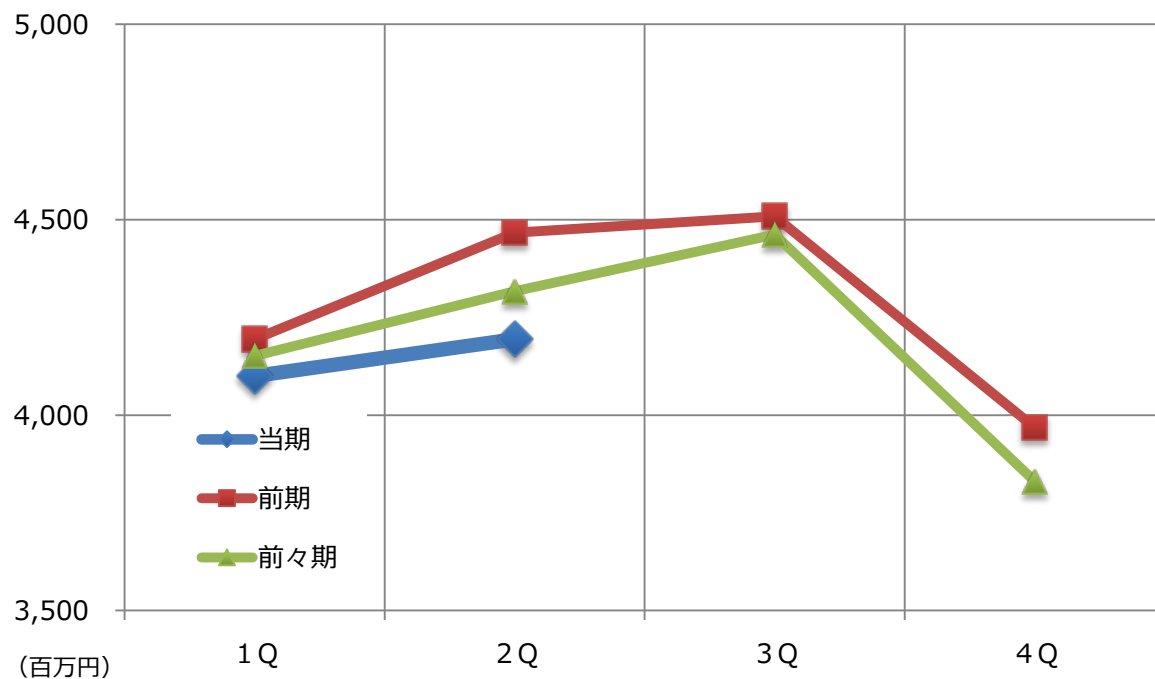
- ・特需案件の確実な受注に向けた営業活動と併行して、インターネット広告や屋外広告の取扱高増加に向けた提案を推進
- ・デザイン業務の効率化によるコストダウン、協力会社の見直しによるDM関連原価の削減に着手
- ・異業種法人顧客向けのプリンティング、デザイン受託業務を本格開始

✓ これらの取り組みの結果、広告事業の売上高は8,180百万円(前年同期比△5.6%)、セグメント利益では684百万円(同△19.4%)となりました。

四半期売上高の推移(広告事業)

(単位：百万円)

	1Q	2Q	3Q	4Q	通期計
当期	4,100	4,194	-	-	8,294
前期	4,194	4,467	4,509	3,968	17,138
前々期	4,152	4,317	4,462	3,831	16,762

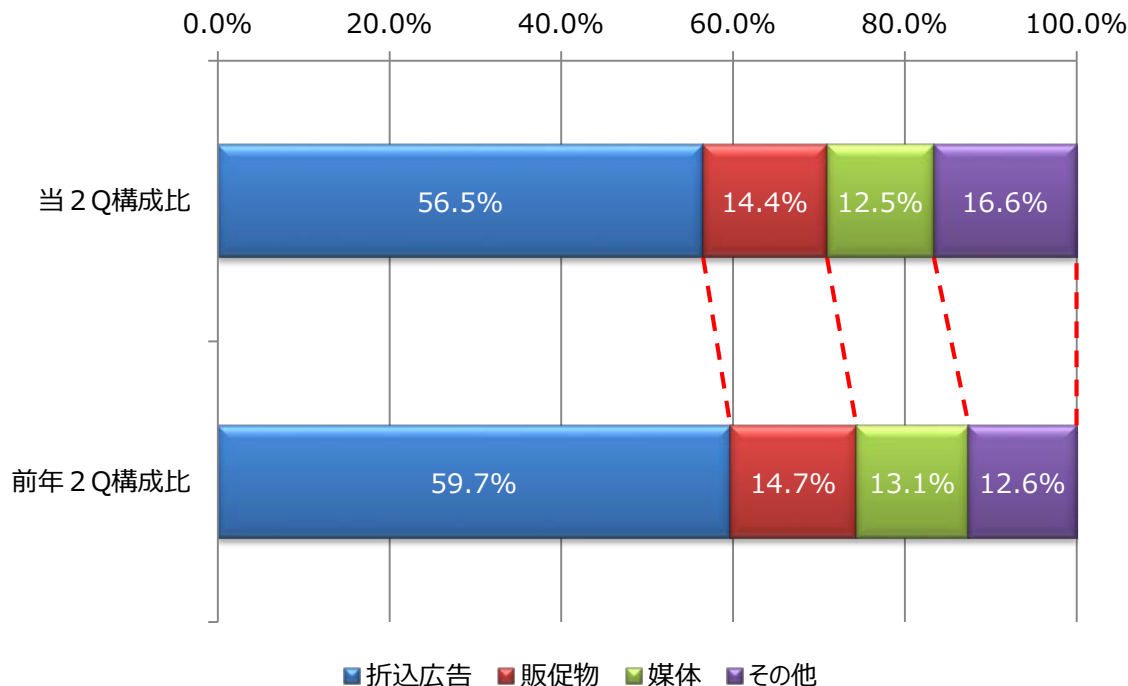


✓ 当2Qにおける広告事業の売上高は、大口の特需案件が少なかったことにより、前年同期に比べ273百万円減少しています。

品目別売上高の推移(広告事業)

(単位：百万円)

	当2Q累計期間	構成比	前2Q累計期間	構成比	前年同期比
折込広告	4,622	56.5%	5,168	59.7%	89.4%
販促物	1,179	14.4%	1,271	14.7%	92.7%
媒体	1,019	12.5%	1,130	13.1%	90.2%
その他	1,359	16.6%	1,090	12.6%	124.7%
	8,180	100%	8,661	100%	94.4%



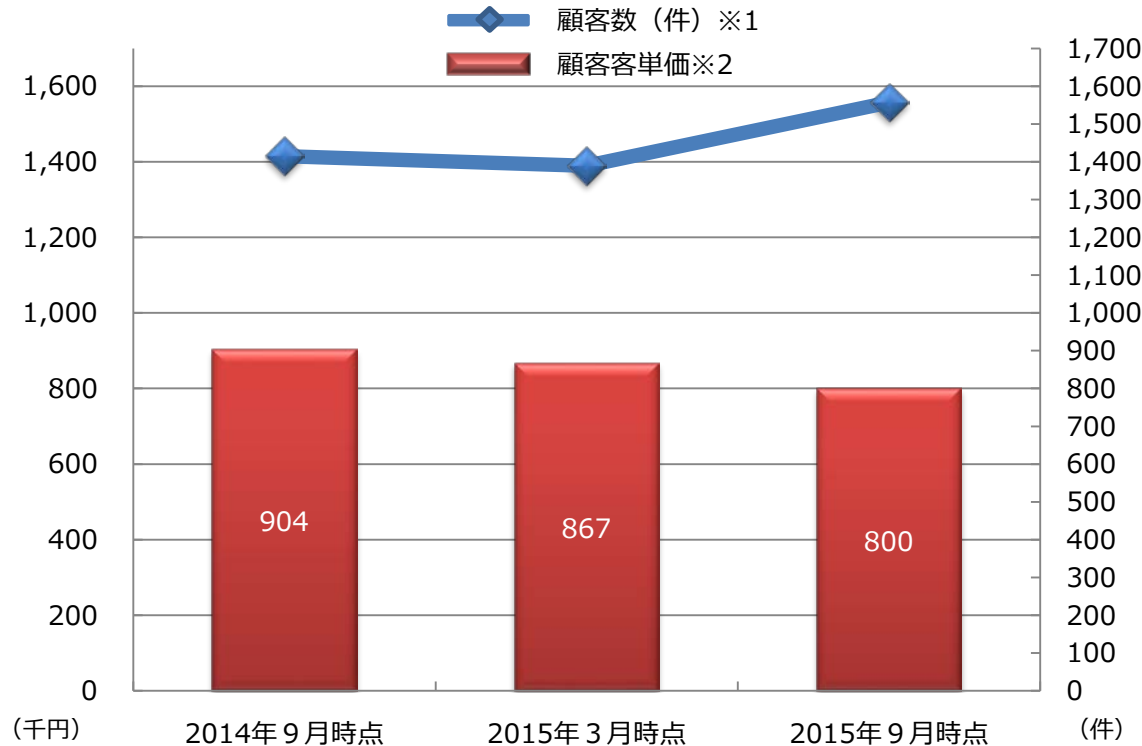
✓ パチンコ広告事業の主力メディアである折込広告が、前年同期比で546百万円減少した結果、構成比も3.2ポイント低下しました。

顧客の状況(広告事業)

□当9月単月でみる顧客数は、未取引大手法人との取引開始もあり、前年同期比で+142件(+10%増)となったものの、顧客の広告費減少傾向により、客単価は同△104千円(△11.5%)減少しました。

稼働顧客	2014年9月時点	2015年3月時点	2015年9月時点
顧客数(件) ※1	1,415	1,389	1,557
顧客客単価(千円) ※2	904	867	800

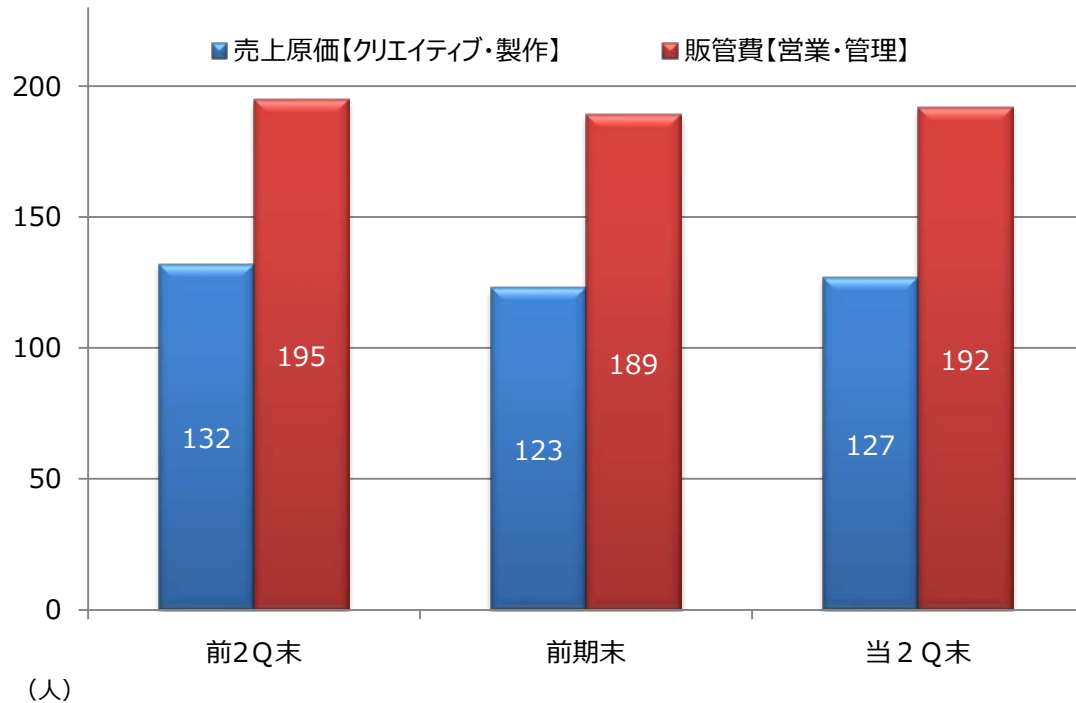
※1：数値は単月実績です ※2：月額取引50千円以上の取引先を顧客としています



従業員の状況(広告事業)

(単位：人)

	前2Q末	前期末	当2Q末
売上原価【クリエイティブ】	132	123	127
販管費【営業・管理】	195	189	192
広告事業計	327	312	319



✓ 当2Q末の従業員数は、前期末と比較して大きな変化はありません。

第2四半期 損益計算書(不動産事業)

(単位：百万円)

不動産事業	当2Q累計期間	前2Q累計期間	前年同期比
売上高	77	74	103.4%
営業費用	44	45	97.8%
セグメント利益	33	29	113.9%

✓ 当2Qにおいては、既存契約で契約中の2件の他にスポットの仲介案件を計上した結果、売上高は77百万円(前年同期比+3.4%)、セグメント利益は33百万円(同+13.9%)となりました。

第2四半期 連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前期末 (A)	当2Q末 (B)	差額 (B) - (A)
現金及び預金	3,494	3,432	△62
受取手形・売掛金	2,105	2,166	61
その他流動資産	305	334	29
有形固定資産	939	961	22
無形固定資産	321	282	△39
投資その他資産	961	872	△89
資産合計	8,129	8,049	△79
支払手形・買掛金	1,220	1,262	42
短期借入金（一年内返済予定の長期借入金を含む）	460	550	90
未払法人税等	234	237	3
その他流動負債	334	191	△143
長期借入金	490	370	△120
その他固定負債	18	18	-
負債合計	2,758	2,630	△127
株主資本	5,353	5,395	42
その他	17	23	6
純資産合計	5,370	5,419	48
負債・純資産合計	8,129	8,049	△79

①納税、配当等による現金および預金の減少

②未払消費税等69百万円及び未払金49百万円が減少

③四半期純利益+333百万円
利益配当△235百万円

第2四半期 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	2Q
税引前利益	542
のれん償却額	22
減価償却費	51
貸倒引当金の増減額	△0
受取利息及び受取配当金	△9
支払利息	3
為替差損益	1
売上債権の増減額	△60
棚卸資産の増減額	△0
仕入債務の増減額	41
その他	△90
小計	501
法人税等の支出額	△208
その他	8
営業活動によるキャッシュ・フロー	300
有形・無形固定資産の取得による支出	△32
投資有価証券の取得による支出	△286
投資有価証券の売却による収入	163
敷金及び保証金の差入による支出	△13
敷金及び保証金の回収による収入	10
その他	21
投資活動によるキャッシュ・フロー	△137
短期借入金の純増減額	100
長期借入金の返済による支出	△130
配当金の支出額	△235
財務活動によるキャッシュ・フロー	△265
現金及び現金同等物に係る換算差額	0
現金及び現金同等物の増減額	△102
現金及び現金同等物の期首残高	3,536
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	40
現金及び現金同等物の期末残高	3,474

①前期決算に係る法人税等の納付額△208百万円

②投資有価証券の取得による支出△286百万円

③投資有価証券の償還・売却による収入+163百万円

④前期決算に係る期末配当金の支払△235百万円

2016年3月期 連結業績予想と進捗状況

(単位：百万円)

	2016年3月期 2Q実績	前回発表通期 予想 (A) ※2015年 4月17日発表	進捗率	今回修正通期 予想 (B) ※2015年 10月16日発表	進捗率	増減額 (B - A)	増減率
売上高	8,294	16,700	49.7%	16,000	51.8%	△700	△4.2%
営業利益	519	1,220	42.5%	1,000	51.9%	△220	△18.0%
経常利益	525	1,220	43.0%	1,000	52.5%	△220	△18.0%
当期純利益	333	810	41.1%	650	51.2%	△160	△19.8%

✓ 当第2四半期連結累計期間のパチンコホール広告市場においては、パチンコホールの収益性悪化により、経常的な広告需要は当初予想以上に減少しました。新規出店告知需要等の特需案件についても、比較的低調に推移しました。

また、当下期においては、パチンコホールに新規設置される遊技機の性能変更等、パチンコホールの収益性に影響を与える可能性の高い不確定要素が存在していることから、広告需要についても、当面は当初予想以上に低調に推移するものと見込まれます。よって、今回、業績予想値を再集計し、修正するものであります。

営業利益、経常利益及び当期純利益は、主として広告事業における、パチンコホール広告売上高の減少に伴う、マージンの減少により、それぞれ前回発表予想比で減少する見込みであります。なお、当社では、**配当の基本方針として、連結配当性向50%を目安としておりますが、今回の業績予想の修正に伴う、配当予想の修正はありません。**

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の情報に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

・IR窓口 経営企画部 Tel.03-5358-3334